

調剤医療費の伸びについて

参考資料2

(1) 調剤レセプト医療費の経年変化

調剤レセプトの医療費の伸びについての分析結果を示します。

2015(H27)年度の調剤レセプト医療費は約48.4億円であり、2010(H22)年度から増加傾向にあります。

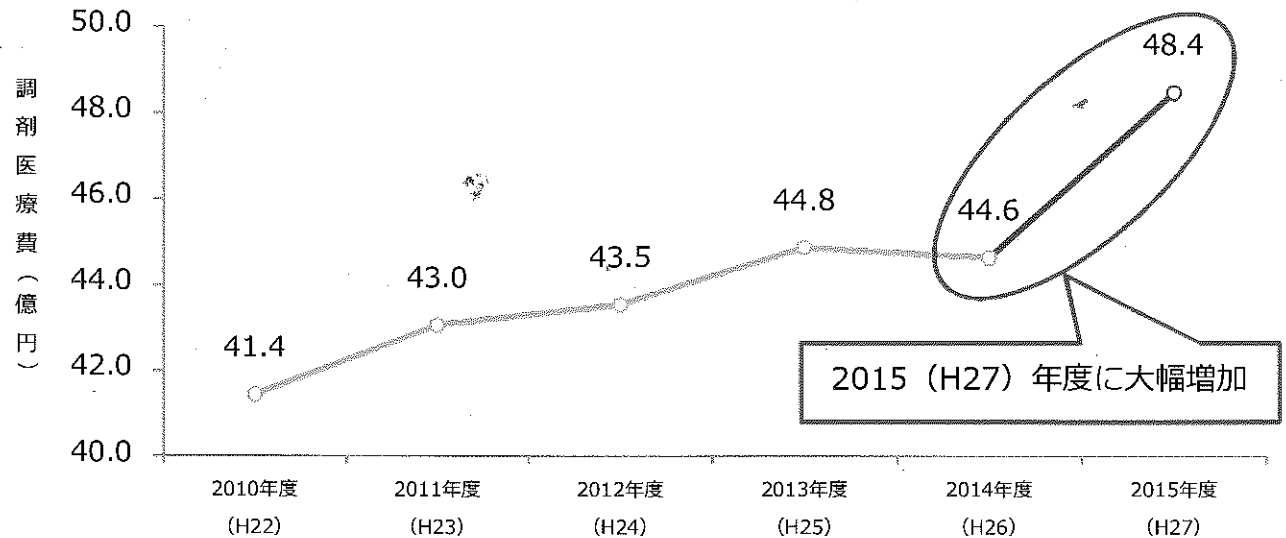
特に、2014(H26)年度から2015(H27)年度にかけては、約4億円と例年に比べて大幅に増加しています。

増加の内訳を行為費・材料費・薬剤費に分解してみると、薬剤費が前年比10.7%増と大幅に増加していることがわかります。

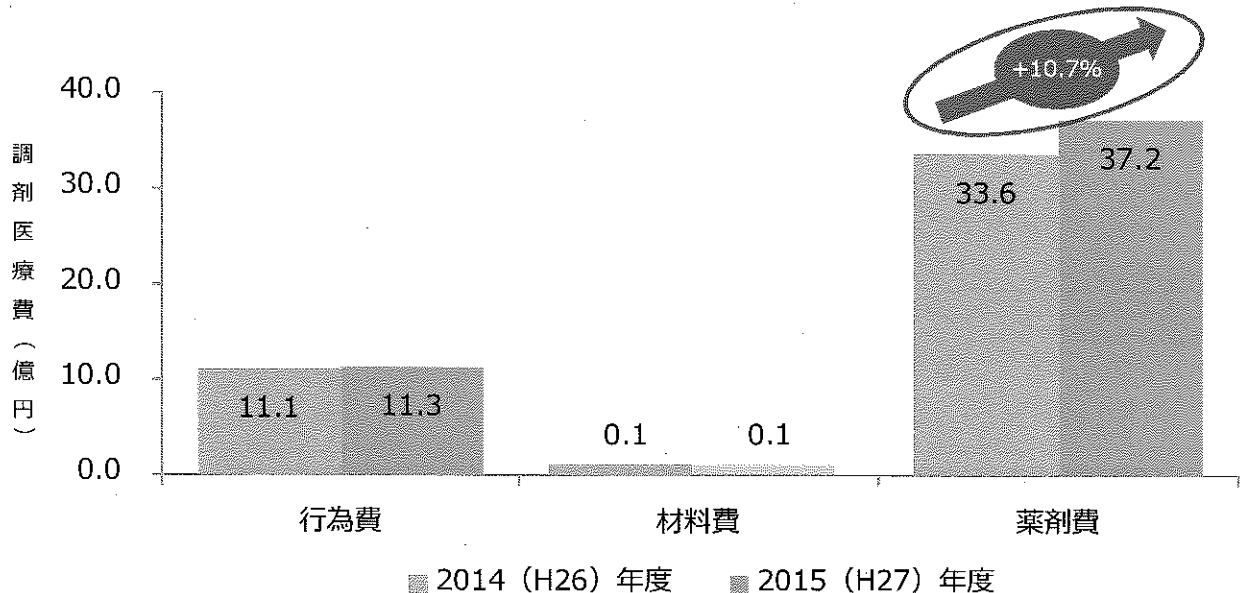
[集計対象者]: 各年度在籍の被保険者・被扶養者
 [集計年度]: 2010(H22)~2015(H27)年度
 [集計レセプト]: 調剤レセプト
 [集計点数]: レセプトの決定点数(食事・生活療養費除く)

※行為費・・・診療行為明細のうち、基本料等の調剤行為にかかる費用
 ※材料費・・・診療行為明細のうち、調剤に用いた器材にかかる費用
 ※薬剤費・・・診療行為明細のうち、薬剤にかかる費用

図表 調剤レセプト医療費の推移 (2010(H22)年度~2015(H27)年度)

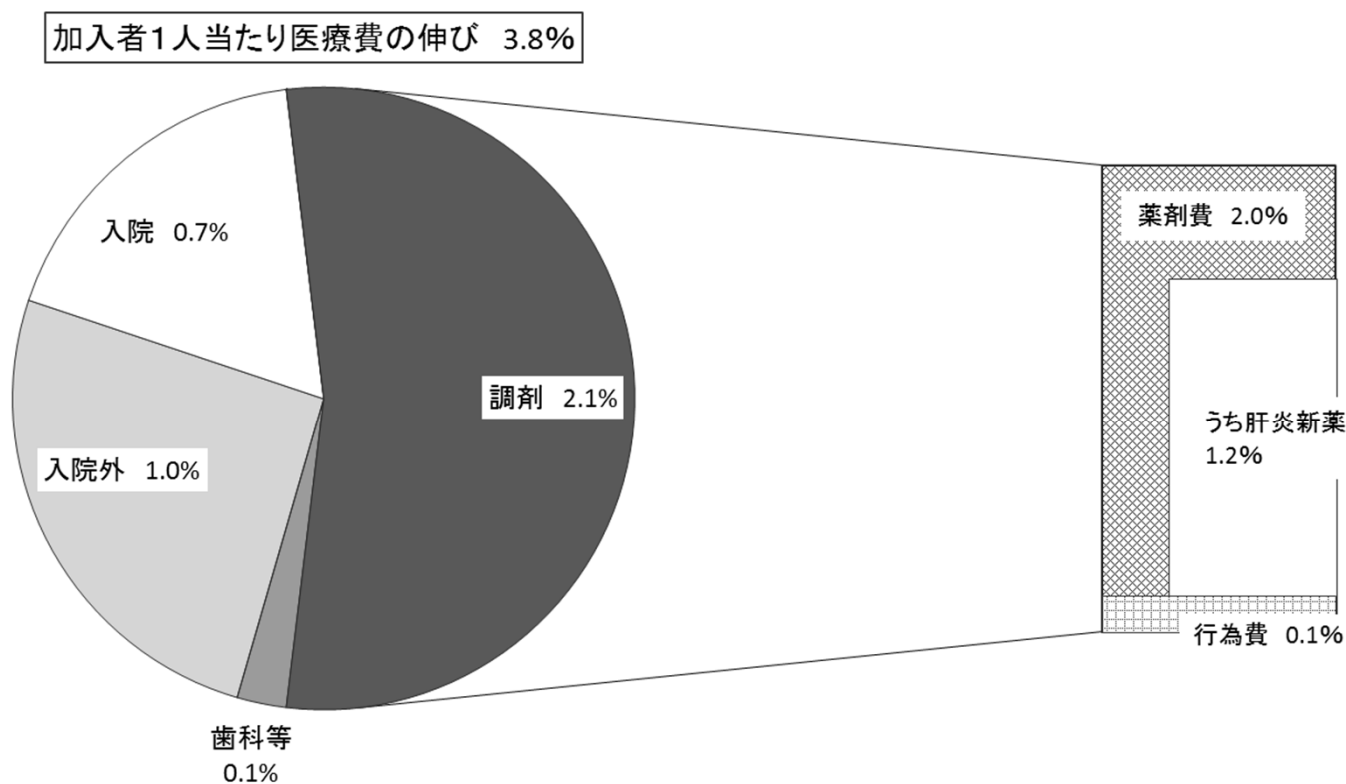


図表 調剤レセプト医療費増加の内訳 (2014(H26)年度~2015(H27)年度)



(2)27年度における加入者1人当たり医療費の伸び(対前年度比)と診療種別等の寄与

- 27年度の加入者1人当たり医療費の伸び3.8%について、診療種別の寄与をみると、入院0.7%、入院外1.0%、歯科等0.1%、調剤2.1%となっており、調剤の伸びが最も寄与している。
- さらに、調剤の伸び2.1%について、行為費・材料費・薬剤費別の寄与でみると、C型肝炎新薬による薬剤費の伸びが1.2%を占めている。
- 船員保険におけるC型肝炎有病者数は、27年度で約8,200名おり、そのうち27年度中に新薬を服用した人数は約40名。(有病者の1%未満)



(3) その他の高額新薬

- ・保険適用されている高額な新薬としては、前述のC型肝炎新薬以外に、抗がん剤オプジーボがある。
- ・抗がん剤オプジーボは、26年7月に皮膚がんの一種にのみ保険適用されたが、27年12月に肺がんにも保険適用されたことにより、対象患者数が拡大した。
- ・また、効果が高いとされる一方、1人当たり年間3,500万円かかるとの試算があり、医療保険財政に与える影響が懸念されている。
- ・28年11月16日に開催された中央社会保険医療協議会において、29年2月から薬価を50%引き下げることが了承されたが、高額であることに変わりはなく、今後、船員保険財政にも影響する可能性がある。